

# 心の絆で山車を曳け

## とよま ～登米秋まつり異聞～

### 少子高齢化社会の中での伝統文化・コミュニティーの継承とは…

登米市登米町にある老舗旅館の跡取り、葛西朝彦と大崎政江は好意を寄せ合っていた。だが、ともに伴侶を迎える立場に悩んでいた。

2人は340年の伝統を持つ登米秋まつりが好きだった。けれども、手間のかかる祭りに懐疑を抱く若い衆が出始めた。囃子を担う子供も減った。それを憂えた指導者の徳治が祭りや山車の発祥を語り始めた。

元禄2（1689）年の梅雨。登米伊達家五代目の村直は隣接する涌谷伊達家や津田家とのわだかまりに悩んでいた。ふた昔前の伊達騒動が原因だった。そんな折、江戸から来た俳諧師が仙台祭りの山鉾を話題にしたことを知った。

登米秋まつりは十四年前、村直が疱瘡快癒の御礼に始めた。その祭りに山鉾のような山車を加えれば「暗い雰囲気を一掃できる」。それを聞いた母藤子の方は「当家と関わりの深い京の雅を取り入れて」と懇願。母子の決断を機に若い衆が絢爛な山車造りに取り掛かった……。



三百四十年の伝統  
とよま  
登米秋まつり  
(平成27年9月20・21日撮影)



### 夢フェスタ水の里とは…

登米市の各地に残る文化や歴史を題材に市民手づくりの舞台公演を繰り広げ、各地域の良さを広く市内外に紹介する「地域おこし」「ふるさと再発見」のイベントです。毎回、募集に応じた200人を超えるボランティアが参加し、キャストや裏方、運営スタッフなどの全てを担い、公演をつくり上げます。

第1回は平成11年3月、旧迫町の鹿ヶ城を題材にして「さいかちの木は風にゆれて」を上演。以来、新たな取り組みを模索しながら、今年度で18回目を迎えます。公演のモデルは岩手県遠野市で長く続いている創作劇公演「遠野物語ファンタジー」。「市民が主役」がモットーの登米祝祭劇場で繰り上げられる最大級の芸術文化事業です。

皆様もぜひご参加ください。仲間とともに成功の感動を分かち合しましょう。